

オウム真理教対策住民協議会ニュース

オウム真理教対策関係市区町連絡会総会が開かれる

6月1日(金)午後2時から千代田区二番町の全
国町村議員会館で、オウム真理教対策関係市区町
連絡会の総会が開催されました。

世田谷区をはじめ連絡会加入の25の
市区町と、7つの対策住民協議会、札幌
市を含む3市のオブザーバーの出席者
と、8つの報道機関が取材する中で始ま
りました。

はじめに会長の近藤足立区長より挨拶があり、決算、役員人事、活動方針、予算について検討され、議案は全て異議なく了承されました。

今年度の役員は、会長が足立区(再選)、副会長は世田谷区と吹田市、監事に越谷市と豊明市となり、活動方針は、アレフ・ひかりの輪・山田らの集団に対して、①活動を認めず、②利益や施設を与えず、③解散させる法律の制定要請を行い、④未加入の自治体への参加協力の要請をしていくこととしました。

総会閉会后、公安調査庁からの報告では、全国の信者数は微増の傾向にあり、今後も活動を観察する必要な状況が続いていると説明がありました。

また、各市区町からの現況報告があり、続いて各住民協議会からの意見交換では、札幌で5月に住民協議会が設

烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

発な意見交換となり午後4時に終了しました。

立された報告や、他の協議会から麻原ら死刑囚の刑の執行とその後どのようなことが起こりうるかなどの心配発言、烏山住民協議会古馬会長からは、観察処分が取り消された場合の危惧や今後の署名活動の新たな模索の提案などが出され、白熱した活



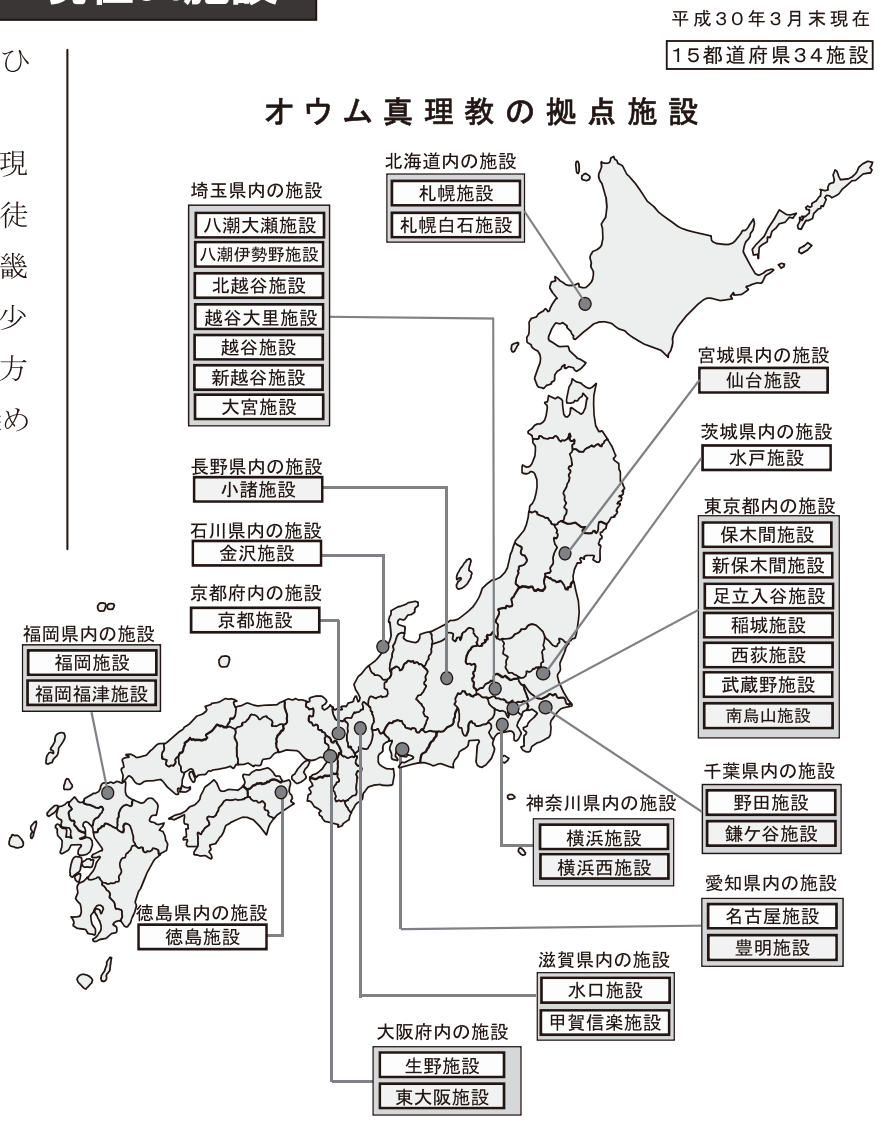
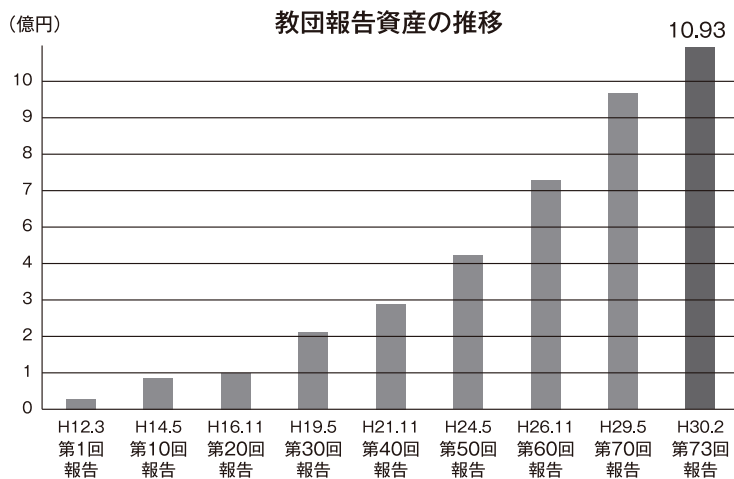
夏の募金活動にご協力をお願いします

オウム真理教(ひかりの輪・アレフ)の解散・解体を目指す、烏山地域オウム真理教対策住民協議会の活動も、17年の歳月が経過しました。一時は約130人の信者が居住し、本部機能を持つ一大拠点の施設でした。やがてアレフが足立区に移転し、信者は減少しましたが、上祐史浩が代表のひかりの輪という、厄介な団体が残ってしまいました。しかし、私達の周りには常に地域住民の皆さんの暖かい応援があり、それが原動力となり17年間の活動の支えとなりました。さて年間20回ほどの募金活動の多くは夏に集中しています。町会・自治会、各種団体が行うお祭り・イベントは、私たちにとっては活動を維持するための募金活動の場でもあります。各団体の皆さんには、毎年場所を提供していただき、様々な便宜を図っていただいていることに、改めてお礼申し上げます。住民の皆さんには、長年の募金活動で顔見知りとなり、毎年募金をして下さる方も多くありました。「頑張つてね」「少ないけど募金するね」「長い期間大変だね」との言葉と共に暖かい募金が寄せられます。お祭りを主催する、町会長・自治会長さんが、参加者に直接募金を呼びかけていただくこともあり、そんな時はたくさん募金が集まり一同益々元気がでます。さらにリサイクルバザーは今年12回目となりましたが、毎回楽しみにしている人が増え、地域の一大イベントになりました。これから本格的な夏になりますが、今年も住民協議会は各地のお祭り・イベント会場へ募金活動に伺います。黄色のタスキ・のぼり旗・募金箱を見かけたら気軽に声をかけてください。お待ちしております。

減らないひかりの輪・アレフの施設 現在34施設

オウム真理教（ひかりの輪・アレフ）は、全国に34の施設（ひかりの輪8施設・アレフ26施設）があり、信徒数1650人（出家約300人、在家約1350人）を有し、資産は約10億9300万円（現金・預貯金・貸付金の合計額）と公表。特にアレフは、新規信徒の獲得に勢力を傾け、新たな施設を作った北海道、さらに近畿地方などで顕著である。近年は、オウム真理教を知らない青少年層（34歳以下）が、信者獲得の主な対象となっている。入会方法は教団名を秘匿したヨガ教室などに誘い、人間関係を深めた後に教団に入会させる手口が多い。

（公安調査庁ホームページより抜粋 2018年4月18日現在）



多様性を認めない教団にNO!

寄稿

私の手元に一冊の本があります。書名は「エルサレムのアイヒマン」。著者はユダヤ人哲学者ハンナ・アーレント。アイヒマンは何百万人ものユダヤ人を収容所に送ったナチス官僚で絞首刑となりました。この本は彼のエルサレム裁判を傍聴したアーレントが報告書としてまとめたものです。

彼女はこう書いています「彼は愚かではなく、まったく思考していなかった」「彼は昇進に恐ろしく熱心なだけで、自分がしていることがどういうことか全然わかっていなかった」と。（出世欲や競争欲等の）「凡庸な悪」だけに誰もが陥る危険があると戒めています。

読後、私には一連のオウム真理教事件とナチスのホロコーストが重なって見えました。住民協議会の抗議集会・学習会はオウム真理教というカルトから地域と若者を守る目的を持って始まりました。学習を続ける中で、教団は「人として考え想像すること

をやめさせる組織」で、有能な人たちが陳腐な悪を繰り返したことを知りました。大げさですが、それがナチスと重ってみえます。

私達市民が（自律し平和で安寧に暮らしたいという願いを実現するために）学習すること、そして人の多様性を認めない教団とその流れにNOを表す行動は意義ある事と思います。

今回の学習会は、「ひかりの輪」観察処分国側一審敗訴（控訴中）の中で行われました。日ごろ馴染みのない判決文を通して、「これまでの論法」では通用しなくなることを知りました。

私たちは、母なる大地に悪い木が根を張ってほしくないと思っています。私には「アレフ」と「ひかりの輪」は木の枝にしか見えません。悪が太い樹になることを恐れ、「寄らば大樹の陰」と人が思考停止し道を誤ることが怖いのです。まがまがしい社会にならないためにも私たちは学習し抗議の声をあげ、教訓を伝えていかなくてはならないと改めて思いました。（I生）

住民協議会活動報告

6月21日（木） 実行委員会

6月25日（月） 編集会議 協議会ニュース177号初校正

7月2日（月） 編集会議 協議会ニュース177号再校正

7月5日（木） 事務局会議

7月10日（火） 協議会ニュース177号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。